

学校だより・あすなる

校長 田崎俊一郎



深まる学び

今年はこのまま暑い日が続くのではないかと
思っていたのですが、季節は確実に進むものです。

札幌市では市電の除雪車両、通称「ササラ電車」も走り始めたようです。いよいよ冬本番でしょうか。

さて、“北小は、しっかりと学べる”をテーマに、2学期の学校だよりでは主に学びの様子を紹介しています。2学期も残り1月となり、学校での学びも深まっています。

先週は第3回となる授業研究会を行いました。これまで本校では3回の授業研究会を行い、読解力を育成するにはどのような手立てをとるべきか研修を深めてきました。3回目の授業研究会は、1年生の国語授業「いろいろな ふね」の学習でした。説明文を読み、「やくめ」と「つくり」を観点としながら、文中の重要な語句や文を読み取ることをねらいとした授業です。1年生の子どもたちは、問いかけに元気に答え、学びを深めていました。入学した頃は、ひらがなの練習をしていた子どもたちが、説明文を読み、大切な言葉に線を引いて、ワークシートにしっかりと書いている姿をみて、成長を感じました。



その他の学年も、正しく読み取ることをめざし、授業形態の工夫、ICTの活用などを通して学びを深めています。来週からは12月、まとめの月となります。2学期の学習をふり返り、成果と課題を明らかにしていきます。



心を見つめて

“心は見えないけれど、心遣いは見える”心はその人の行為に表れるということです。その意味で子どもたちの心を見つめてみると、少し心配です。一番感じるのはあいさつです。児童会の取組で“あいさつカード”の取組がありましたが、あいさつができる子はまだまだ少ないです。あいさつは、相手に対して自分がどのように感じているかを示す自己表現の第1歩です。相手のことを大切にしていれば、あいさつは自然と交わされますが、相手の存在に気付かなかったり、あるいは気にならなかったりすると当然あいさつは交わされません。その人の存在を認める気持ちがなければあいさつは行われなと思います。

朝、神社近くの交差点で見守りをしていると、行きかう車の方がいつも会釈をしてくださいます。見守りをしている自分を気遣ってもらったようで嬉しくなります。あいさつによる気持ちのやりとりがもっともっと増えるように学校でも取り組んでいきます。